

# 京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第1969回★★ 金比羅山岩登り	9/4(土) AM9:00 絵馬堂前集合	馬淵拓己(708)	
装備は岩登り道具一式。詳細は担当者まで。			
第1970回★★★ 岳連岩登り講習会 鈴鹿藤内壁	9/10(金)~12日(日)	馬淵拓己(708)	
装備は岩登り道具一式。詳細は担当者まで。 参加希望者は8月31日に中小企業会館で行われる説明会に出席のこと。			
第1971回★★ 百里ヶ岳	9/15(水) AM7:00 壬生出発	岡田茂久(811)	壬生=梅の木=小入谷峠- シチクレ峠-百里ヶ岳-根 来坂峠-焼尾地藏-小入谷
日帰り装備 地図は古屋(1/2.5万)			
第1972回★★ 北アルプス 乗鞍岳	9/21(火)~22(水)	吉田 武(654)	21日 京都=中津川-下呂 御膳岳-高山市内(泊) 22日 高山市内-乗鞍岳- 中津川=京都
費用 10,000円程度 集合場所、詳細は担当者まで。			
第1973回★★ 鎧岳・兜岳 俱留尊山	9/25(土)~26(日) 9/25 AM8:00 竹田集合	井戸澄夫(734)	R24-R165 おかめ池でキャンプ
第1974回★★ 姫路播磨支部山岳会 との合同登山 リトル比良とシン岩	10/2(土)~3(日) 10/2 AM1:00 壬生集合 または PM6:00 比良山岳 センター集合	大倉 寛治郎 (3371) 吉田 武(654)	壬生-途中越-和邇-比良 山岳センター(泊)-リト ル比良トレッキングとクラ イミング
費用 6,000円(宿泊費, 交通費, 保険代を含む)			
<b>今月の集会</b>		<b>企画運営委員会</b>	
日時	9月9日(木) PM6:00	日時	9月24日(金) PM6:30
場所	厚生会館 4F 大教室	場所	厚生会館 4F 大教室



## ヘクトパスカル

岡田茂久

山行き前に何が気になるかと言えば、コースやルートの難しさ、所要時間、中にはバテへんやろか、帰りに温泉入れるやろかという人もあろうが、まず一番は天気であろう。

以前は、日帰りは別としても本格的な登山の前には、ラジオの気象通報を聞き、何日か前から天気図を作成したものである。しかし、これが結構面倒なのである。ラジオの気象通報では、まず全国の天気概況、続いて各地の天気、風向、風力、天気、気圧、気温が放送され、次に船舶からの報告があり、最後に漁業気象で高気圧、低気圧の位置、前線の位置、最後に代表的な等圧線の位置を教えてくれる。慣れてくると天気図用紙に直かに記入できるようになるが、滑らかに等圧線を記入するのも結構難しい。山行きの前夜などは横着をして、低気圧と高気圧の位置、前線の位置だけを記入してお茶を濁すこともある。しかし、これだけでも結構役に立つものである。

天気図が完成しても、それだけで天気予報が出来るわけではない。出来上がった天気図を読んで天気予報を自分なりにするのであるが、これが至難の技である。自分の天気予報が当たると嬉しいもので、時には大雨で撤退しながらも、ニヤリとするというような変なことになる。

ところが最近のテレビの気象通報は、刻々と移り変わる低気圧や前線、それに雲の動きまで、一目で判るようになり、眠い目をこすりながら、下手な天気図を作るのがバカらしくなった。念のため、朝の出発前に現地のNTT天気予報サービスに問い合わせたり、時には我が家のドラ猫トラさんの行動で「うん大丈夫」。しかし、山に入ってからではラジオの気象通報に頼らざるを得ない。

ところで、去年の12月1日から気圧の単位が、それまでのミリバールからヘクトパスカルに変わった。SI国際単位系に統一するため改正されたもので、当初は気象通報のアナウンサーも舌を噛みそうになっていたものである。しかし、聞くほうとしてはミリバールからヘクトパスカルに変わったおかげで、字数の分だけ書き写す余裕が出来たと思っていたが、放送時間は変わっていないからさすがプロである。どこかで胡麻化されているに違いない。

パスカルは17世紀のフランスの科学者で、哲学、数学、物理の分野でも知られている。「人間は考える葦である」という名言で知られ、ユークリッド幾何学の一命題の証明、それに大気圧の存在の証明、流体の圧力に関する「パスカルの原理」はもっとも有名である。これにちなんで圧力の単位がパスカルとなったのである。ヘクトは100倍であり1ミリバール=1ヘクトパスカルで、尺貫法からメートル法に変わったときの様に「えーっと15kgは4貫だから…」というような換算の必要はない。ちなみに気圧の単位は、日本で気象事業が始まった明治8年に「インチ水銀柱」で始まり、次いで明治16年から「メートル水銀柱」が戦後の昭和20年の年末まで使われ、それから「ミリバール」の時代が昨年まで続いたのである。

年度末の活動報告などによく「バロメーター」という言葉を使うが、「バロメーター」とは気圧計のことである。1気圧は1013ヘクトパスカルであり、それより上が高気圧で下が低気圧である。そろそろ山岳部活動のバロメーターである例会参加人員が気になる。平成5年も後半に入ったが、天候も不順続きでどうも例会参加人員は伸び悩んでいる。パスカルさんを拝借すると「人間は考える足である」。1013ヘクトパスカルを上回るよう、精々例会へ足を運こんで頂きたい。

【第1955回例会】

西山Ⅲ 1,428.7 m 新居浜（高知9号）

伊藤潤治

今西忌と銘打ったが、そのみで改めてのご案内は、ほとんど行わなかった。ある人から前座の山々が立派すぎる、梅雨時に、無理ではないのかとご心配をしてもらっていたが、予定に従った。

新居浜につき、銅山峰ヒュッテ主、伊藤玉男氏にお力添えをいただいて、別子銅山記念館の参観に続いて、長馳七番越えで別子山村小足谷登山口まで送っていただいた。この車窓で会った黒森山、沓掛山、平家平、三ツ森山、東赤石山は、眼底にこびりつく面構えをしていた。

小足谷コースは、『旧別子案内』には、「元禄四（1691）年より大正五（1916）年に至る225年の間、別子銅山の採鉱ならびに製錬の中心地であった所で、山中には多くの遺蹟……………」その他が記されている。遺蹟名は省略するが、遺蹟案内標だけでも銅山越までの数は23箇所もある。

見慣れぬ美しい岩石の道を踏んで行き、休憩舎の建つダイヤモンド水で昼食をとり、しっとり落ちついた重任局・大山積神社跡で一本たて、田牛車道を歩いて蘭塔場を足下に展望が開け、追風を受けながら西山の稜線に立った。

頂上には空身で登った。そこには厳かな黒森山Ⅲ 1,678.4m・沓掛山c a 1,700m（新居浜）・篠ヶ峰Ⅰ 1,860m（日比原）があり、思わず唖ってしまった。

飛ばされそうな強風と別れて銅山越から銅山峰ヒュッテにつきお世話になった。その夜は、たいへん美味をならべ、取っておきの銘酒等でご歓待いただいた幸せな第一日である。

コースタイム

11日 青木港 22時15分

12日 新居浜港 7時。別子銅山記念館 8時～9時30分。小足谷登山口 10時45分。西山 14時15分～40分。銅山越 15時10分。銅山峰ヒュッテ 15時35分。

柳谷点Ⅳ 997.2m、西の山Ⅰ 244.2m 新居浜（高知9号）

銅山峰ヒュッテの泊りは、やまじ風が山を揺るがすやかましきで、朝を迎えても、雨を加えて吹き続けていた。一時は待機を考えたが、欲を捨て、下山することにした。

伊藤玉男氏は、きょうもお付き合いをして下さると、同夫人のお美事なお手前をちょうだいしての出発は、出陣の感動であった。

柳谷点Ⅳ 997.2mは、馬の背コースの途中にあって、一ノ森Ⅳ 832.6mと辻ヶ峰Ⅲ 957.9m等が風情よく眺められる。

高丸（とうなる）に下山してからは、伊藤玉男氏の愛車で、預けた荷物を取りに新居浜駅経由、新居浜港を左に見て東行、土居町に入って上った峠で駐車、そこは雨がやみ暑い日差しがあった。

峠から尾根に上ると、痛ましい山火事跡、焼跡の上限が頂上であったがなぜか、燧灘側は生木のまゝの林である。

西の山、の点名は天満山だが、一等三角点があっただけ、焼けたために南望があった、けれど赤石山系の山波は、暗雲にすっぽりおおわれていた。

名残り尽きない思いで下山して、その夜の宿松屋旅館に送っていただいたのは13時25分。きょうのⅣとⅠは思いがけない収穫でありがたかった。さらに番外霊場、いざり松本坊延命寺のお詣り散策の余裕まであった。

#### 赤星山Ⅱ 1,453.2m新居浜（高知9号）

『日本山嶽志』「伊予国宇摩郡ノ中央ニアリ、富郷村ヨリ一里二十五町ニシテ其山頂ニ達ス、全山結晶片岩ヨリ成ルモノノ如シ。標高凡三千尺。」

きのうは休養充分のおかげで、今朝は目覚めが早く時間をもてあます。どう見上げてても怪しい空模様であったが、伊予土居駅・赤星駅・森首経由野田林道終点に入った。

登山道は右岸にあることは分ったが、高い水かさには架る橋が半壊、であったのには肝を冷やし面食らった。

ぬれた草木・ガス低迷の大地川皇子溪谷であったが前千本・中千本・機滝・雄滝・雌滝・造林小屋・稲妻滝など名瀑・奇勝が相次ぎ知らぬ間に楽しくなっていた。

溪谷・尾根コースの分岐で、尾根コースを選ぶ。上手についている気持のよい道である。ぐんぐん登り標高約1,200mで右岸上に出て、再び溪谷沿いになるが、もう緊張する所はない。気がつくとも空は明るかった。

やがて心憎い自然林をもつ本峰北尾根に上り、左折して原生林を10分余行くと、頂上二等三角点に躍り出た。

しかし展望はあいにくだった。奇跡は生じなかったのである。だが念願は、『1500山のしおり、（赤星山Ⅱ 1,453m, 1977.8.28）』の登頂であったから、登頂成功だけで充分であり、感動であった。

山頂南稜は広々とした野営場になっていた。ちなみに『日本山嶽志』の登路はこちら側で、ある書には、中尾から二時間の所要とある。

西行法師の「忘れては富士かとぞ想ふ これやこの伊予の高嶺の雪のあけぼの」は、この山を詠んだという。また伝説では、宇摩大領越智玉澄が大山祇神を勧請する途中、この地方の局地風やまじが吹き起り、乗っていた船が大きく揺れていた時、この山の頂きに流星が明々と飛ぶ、風波がおさまったので赤星山と呼ぶようになった（角川地名辞典）という。

下山は往路をなつかしみつつ踏んでいると雨になった。別名赤星ラインと呼ばれていて、山道は美事に整備してあったが、雨中の溪谷部は岩面が滑りそうだった。

雨と汗で濡れそぼってしまったけれど、とにかく大満悦で松屋旅館に戻った。

#### コースタイム

14日 赤星駅6時23分・林道終点7時50分～8時15分・造林小屋9時50分・右岸上12時20分・赤星山13時～14時・造林小屋16時27分・林道終点17時35分・赤星駅18時50分。

#### 雲辺寺山Ⅱ 910.7m、観音寺（岡山及丸亀8号）

迎えた15日は薄日が濡れて、天候回復の兆しを感じさせる朝であった。雲辺寺山は豊浜駅下車がよい、と調べてもらい出発する頃になると、雨になった。松屋旅館は気の毒がって駅まで送っ

て下さった。

おかげさんで、やがて雨がやみ、豊浜駅からはタクシー営業所へ荷物を預けて空身で雲辺寺山に向う。全長2,594mのロープウェイからの展望はでは、近くのI△のヨツヲや七宝山等よりも、はらかな象頭をはっきり見る事ができた。

これが『日本山嶽志』の時代は、「雲辺寺山、(別称 雲遍山、佐野山)、讃岐国三豊郡、阿波国三好郡ニ跨ル、三豊郡五郷村大字内野々ヨリ一里十六町、三好郡佐馬地村大字白地ナル吉野川渡口ヨリ一里三十三町余ニシテ其山頂ニ達ス、標高二千九百六十尺。」をてくてく歩いたのである。

ゴンドラで乗合せたにぎやかな九州のお遍路さん群と別れて、東北に向う舗装路の終点に行くと、山頂駅で望見した無線施設が辺りを占拠していた。仕方なく濡れ草の茂る中を頂上にあがって、標石を探した。けれど輪部のない供養塔と小碑だけで、二等三角点にはお目にかかれなかった。

かくてセレモニーは件の供養塔をやむなく標石代りに、「自然院寿山萬經錦峰居士」をしのんだのであった。あと第66番札所・雲辺寺でご冥福をお祈りしてきた。

ちなみに雲辺寺山の△は、「1500山のしおり(1981.1.16)」も、積雪のため未確認である。念のため、測量部に尋ねて、もらった資料を見ると、探索不足であったかも知れない。

山名は、弘法大師が唐より帰って、草庵をつくった折、天にのぼり雲に座する心地がした、ことによる命名と伝えている。

#### コースタイム

15日 豊浜駅 9:49 - ロープウェイ山頂駅 10:40 - 雲辺寺山 11:00 ~ 35 - 第66番札所 12:00 - ロープウェイ山麓駅 12:40 - 豊浜駅 12:55 - 観音寺駅 13:35 (しおかぜ12号) - 岡山駅 16:01 - 20 - 京都駅 17:35。

参加者 山下周道, 他1名

#### 【第1959回例会】

## 男 埴 山

河 村 清

梅雨空で今にも降り出しそうであったが、メンバーが揃ったので定刻に山科駅前出発する。

名神走行中に何度も中津川インター・京都東インター間は雨と放送していたが、大した降りにもならずまずまずだった。

中津川インターより19号線にて落合交差点を右折、中央自動車道(赤い大鉄橋)を潜り、川並集落で左折もう一度自動車道を潜り細野の集落より柳樽川に沿って林道に入る。途中、坂下宮林署のゲートが閉まっていたが運よく鍵が開いたのでさらに奥まで入ることができ予定時刻

(10.30) に  
 予定地点に  
 着く事が出  
 来た。日が  
 射して来た  
 ので出足好  
 調と思った  
 が前日の雨  
 で藪は濡れ  
 ているので  
 全員合羽着  
 用で歩きだ  
 す。

最初から  
 藪漕ぎ覚悟  
 であったの  
 で林道終点  
 の谷を左に  
 入れればよ  
 かったのに、右

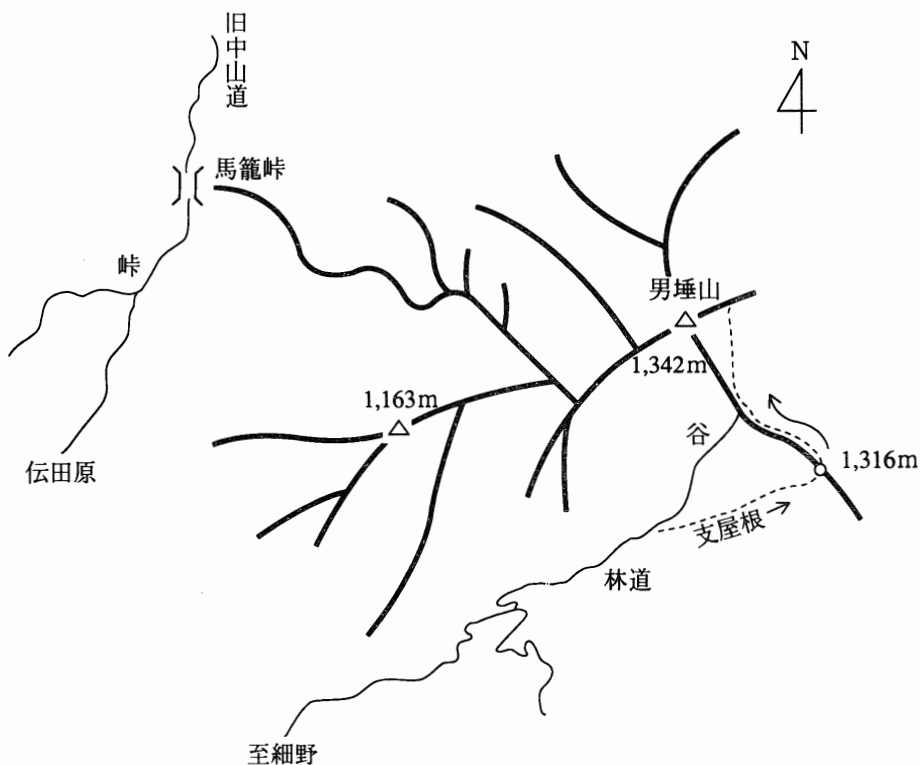
の道にさそわれて入ってしまった。10分ほどで藪となる、登につれてますますスズダケが密生して行く手をさえぎる、ラッセルを交替しながら懸命に潜る、現在地確認するにも背丈を越す藪の中では難しいので赤テープを付けて、ただ上に登るとやっと尾根に出た。樹林の間から見た山容が少しおかしいと言うことで初めて地図を見ると独標 1316m の肩付近である。遠回りしたことが分かりそれより尾根を左へ登る。

あい変わらず巨大な倒木と藪で閉口する。時計を見て思わぬ時のたつのが早いのに気がき心せわしく感じる。腹も空いたので (13.40 頃) 藪にもたれて昼食をとるが、寒気がするので長居は出来ず再び藪の中に入る。なぜ、こんな山に登るのかと、自問自答しながら頑張りやっと三角点 (1,342m) に着く (14.50)。展望ゼロ。早速周囲を刈り込み腰を下ろすと、メンバーのよごれた顔は笑顔に変わっていた。

部報には「ちよっとしぶい山」と記してあったが、ちよっとどころではなかった。でも、なんぎすればそれだけ「やった」と言う気分になれた。

帰路の時間を考えると長居は出来ない (15.40) 下山にかかる、ひどい藪でもやはり下りは早い、テープのおかげもあったが 18.15 駐車点に着く、中津川駅前の銭湯で汗を流し、夕食をすませ、22.30 頃京東都東インターへ帰って来た。

参加者 伊藤潤治, 三橋 勉, 他 1 名



## 沢登り

### 鈴鹿元越谷

三橋 勉

久しぶりの沢登りであったが、水量も多くスリルと涼味満点の夏らしいさわやかな気分を味わってきた。

栗東ICから国道1号線を走り鈴鹿スカイラインに入り野洲川ダムサイドから、ゲート手前の橋を渡り宮指路岳の林道を進みゲート手前で駐車する。

そこから500mほどで別れ道があり、宮指路岳へ行く林道の反対側を進んだ所で元越谷に入ると、明るい広い河原であった。

身仕度を整えジャブジャブと水の浅瀬を進み、大きなえん堤の右側を乗越すと仙ノ谷の出会いがあり、本流はまたもや砂防ダムを乗越して行くとトロ場となり、「落ちたら、川の中やおもい切って行け」というリーダーの激励?の声に元気づけられて、前の人の足の置く位置を確認しながら順番にへつることとなる。

やがて大滝の所に出たが、右側から巻くように登り、滝の落ち口よりはるかに高い位置に登ってしまったので、立ち木に捕まりながら降りるはめになった。

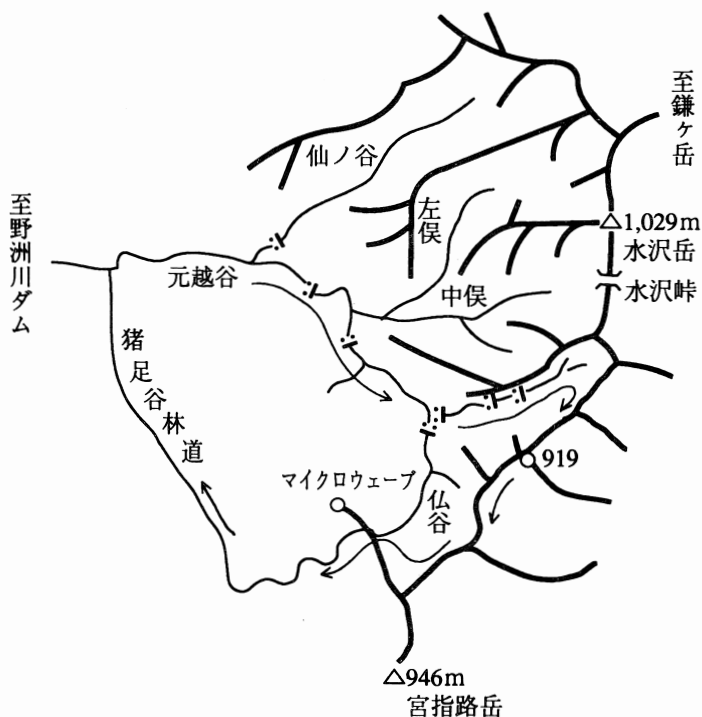
最初は曇っていたので少し寒いのではないかと思っていたが、時々薄日もさしてきて快適な沢登りとなり、マイペースでのんびりと楽しみながら進む。

左俣の分岐点の大きな石の上で11時半となったので、ランチタイムとする。今日はヤキソバのメニューである。できあがるまでの間に、例によって各自のおべんとうのおかずのツマミグイをする。

昼食後元気が出たところで、なおも進むと、シャワークライミングのあるところに出た。だれが一番遅く通過するか?、水もしたたるよい男や女になって無事に全員通過する。

やがて仏谷の出会いに到着。今日は仏谷に入らず、右の本谷を詰めることになった。

水量はまだまだ多くて、存分に楽しむことができたが、川幅がだんだん狭くなって来



て右の谷から滝が落ちて来ているところを高巻きしている間に枝尾根に上がってしまったので、そこで靴を履き替え、沢歩きを終了し稜線出た。

そこから独峰 919m を越えて、はるかかなたに入道岳やアンテナのある野登山を望み、仏谷峠を過ぎて、宮指路岳の分岐点から林道にでて約 50 分かって駐車地点に帰って来た。

帰りに湯の山温泉でサッパリと汗を流して本日の充実した山行はオワック。

参加者 岡田、鷺見、横井、渡辺、方山、三橋

コース・タイム

京都東 I C 7 : 40 - 元越谷 9 : 40 … 大滝 11 : 00 … 右俣左俣出合 (昼食) 11 : 30 ~ 12 : 10  
… 仏谷出合 13 : 00 … 稜線 14 : 05 … 独峰 919m 14 : 18 … 宮指路岳の分岐点 15 : 00 … 林道  
15 : 06 ~ 15 : 25 … 車止

## 【個人山行】

### 小川山クライミング・ツアー

7月2日~4日

台川敦美

今回の山行はサン・ラック C・C 主催のツアーに参加して若者の中に混ってクライミングを楽しませて頂きました。

出発は梅雨の最中のドシャブリの 7 月 2 日の夜の 10 時、自宅近くの五条通りのバス停で拾ってもらおう。車は 29 人乗りの M バス、乗客は 14 名、名神東インターで高速道へ入り一路廻り目平へと向う。

途中の仮眠を入れて早朝に駐車場に到着、K 岳人 C の 3 名が待ってられて合流、総勢 17 名となり雨の上った岩場で各自コンビを組んでクライミング開始です。

広沢リーダーの説明で最終的に全員が尾根岩連峰のおむすび山スラブへ集合との事で私は新しい相棒の O 君と山本俊夫さんと岳人 C 3 人の方とで先におむすび山へ。案内はこのエリア入山 5 回目のベテラン山本俊夫さん。

壁に着き、ここで一番簡単なルートはと問ねて O 君と取り付いたのが 5 : 10 A で最初から四苦八苦して登るもクライミング 3 回目の相棒がノンテンでクリアしてくれ喜びと共に複雑な気持。

その上山本俊夫さん広沢さんの相棒と自認するだけにこのルートをアッと言う間にリードして登ってしまった!! イヤーマイッター!! です。

日当たりがよく壁が早く乾くこのエリアは土曜日の所為か知らぬ間に人が増えて登るのに順番待ち、サンラックの仲間の顔も全部覚えてないのでまごつきましたが関東方面からのクライマーには女性が多く圧倒され壁下の隅の方で O 君と二人小さくなってました。しかし我等が山本さんはこのエリアのベテランで仲間の皆さんにイロイロとアドバイスをされ喜ばれておられます、やっ



と空いたルートを見つけて取り付いたのですが難かしくてなかなか上へ登れません下を見ると心配そうな顔・顔・顔、観客の多いのは嫌いと言った中でブツブツ言いつつあとひと息でビレー点・・・と思った瞬間・・・5M程滑落!!

アアアアとうとう落ちちゃった（この瞬間は頭の中はカラッポです）・・・痛みや恥しさはこのあと徐々に感じてきます、ビレーしていたO君もザイルに伝わるショックに驚いてましたが交替してトップロープ方式とはいえノンテンで登ってしまったのには（グレード5：10B念の為）私の立場がないよ……と喜怒哀楽を感じた長くて短い一日でした。クラブの若い女性のお世話での夜の宴会は大鍋を囲んで17人がワイワイガヤガヤと話は弾みます。時をえらんで広沢リーダーより明日の行動予定の説明があり終宴で各自寝床へと解散（テント3張りとお宿の中）当局はその場で気持ちよい朝を迎えました（仲間3人）。

晴天の4日はクラック組とスラブ組とに分かれて行動、私はO君と前回の屈辱を晴らす為にガンバレ熊さんへ、現場へ行くのに西股沢の水量が多く渡るのに靴もズボンも脱いでひと苦勞、そして壁へ勇んでアタック……O君の手前もあり自分としては全力を出したつもりですが……10年早いぞと壁に言われて敗退、トップロープだけはセットしてO君へハイドウゾ!!、彼は心優しい若者で壁と長い間会話（広沢さんのアドバイスー喧嘩しないで壁と仲良く）をしてくれてウーン!!ココハムツカシイ?、そうかそうか難しいかとホッとする当局でした（5：10B）。

残りの時間も少なくなってきましたが人気の小川山物語りだけは登っておこうと移動するがやはり順番待ち（我々の仲間の多くがこの方面へ来てたので）、このルートは高度感がありO君もさっきと違った感じを楽しんでくれました（もちろんノンテン・クリアです）当局の肩の荷も少しは軽くなりました。

リーダーが3時発と言っていたので皆さん早めに駐車場へ帰ってこられて今度はシャワールームの順番待ち、荷物を積み込み定刻出発、緑イッパイの廻り目平を離れ高原野菜畑の中をドンドン高度を下げて野辺山・清里・そして中央高速長坂インターから高速道を一路京都へ、何故か京都に近づくにつれて雨・雨です。しかし現地では晴天に恵まれたラッキーな山行で又一般社会人学生さん等々の若人と仲良く遊んで頂きました。チャンスがあれば又参加したいと考えつつ報告を終わります。

## 【個人山行】

### 東大雪の山旅・ニペソツ山

服部正義

6月に東北シリーズで九山（男鹿島（真山）・太平山・大仏岳・森吉山・秋田駒ヶ岳・鳥帽子岳（乳頭山）・姫神岳・七時雨山・和賀岳）に登り、トレーニングを積み楽しみにしている。年一回の北海道、山旅に7月19日、帯広空港に向って、大阪を飛び立つ。

ニペソツ山（2,013m）2等三角点

深田久弥氏が昭和39年7月20日に新潮社から（日本百名山）を出版された翌年、昭和41年

8月12日、講演の途中、時間を作り4人で杉沢出合から登山されたので、今回小生も同じコースでニベソツ山に登山させてもらう。

平成5年7月19日、空港前ニッポンレンタカーでダイゼルのバンを5日間借りてR.241、R.273で上土幌町、糠平の東大雪博物館（入場料、300円）を見学して、糠平湖から、日本山岳会三百名山の候補から外れた、ウペペサンケ山（1,835m）、ウペペサンケ山に登り、R.273で明日のニベソツ山登山にひかえ、混浴の幌加温泉（入湯代400円）入浴、食事を済ませ、R.273、十勝三股手前で左折、入林届を出す小屋があり、杉沢出合まで車を走らせ、登山口に着くと10台で駐車する場所がないので手前のカーブの広い場所で駐車して、周囲はまだ明るいがお酒を飲みシュラフに入って眠る。

7月20日、一日一山の予定なので目覚時計もかけず自然にしても、AM5時前に眼がさめ、栄養バランスを考えた朝食を済ませ5時30分、出発、杉沢出合登山口に着くと、駐車中の皆さんは出発したのか、唯一人いない。

十六ノ沢の丸太橋を渡ると杉沢で10メートル程歩くと尾根に取りつき、天狗ノコルでAM4:00出発のメンバーに追いつく。（AM7時28分着）ニベソツ山の写真はこの場所が数多く、皆さん思い思いに撮られているが、ここでワンピッチ、お茶に塩を入れて10分休憩。

7時40分、18名の先着の人々より天狗岳（P1,868m）に登りたいので出発、天狗平から20分で天狗岳にしっかりした道がないが、山頂に登り着く、狭い岩のピークでここからのニベソツ山は鳥がこれから急上昇しようとする様な山姿でカメラを出して撮り、一旦最低コルまで下りやせ尾根を通り、ニベソツ山のピークを見ながら又、表大雪の山々を見ながら楽しく登っていると新しい熊の糞を発見、大声を出し、鈴を鳴らしながら最後登山道を左に廻り急登すると埋められていない二等三角点が、一枚のニベソツ山のプレートが私しを歓迎してくれている様に立っていた。（山頂着9時16分着）

山頂はそう広くないが一人ではだかになり360度の大展望、明日登る石狩岳等とりわけ、表大雪、旭岳からトムラウシ山、オプタテシケ山、十勝岳等々の縦走して登った山々が眺望出来て感激、一人ビールで乾杯、記念写真をとりメンバをまつがまだ時間がかかりそうなので下山準備、30分の休憩があっという間にすぎる。

9時50分下山開始、天狗岳最低コルで18名の人達が休憩中、お別れして往路下山、12時34分杉沢出合登山口に無事帰る。

昼食、仮眠して次の山、石狩岳に向って岩間温泉に移動する。

#### 石狩岳（1,966m）音更山（1,932m）一等三角点補点

7月21日、AM4:10分起床、朝食を済ませ、シュナイダーコース登山口に向って岩間温泉（施設無）を出発、新しい橋下に駐車場、テントサイトがあり（積雪調査小屋は流されてなし）、登山口プレートはないが右側の大きい岩に×印を見つけ、AM5:00出発、最初は沢を遡って、大声を發し、鈴を鳴らしながら最後の水場からいよいよ急登、直登の連続で、ニペノ耳展望台、かくれんぼ岩、右にユニ石狩岳、音更山を眺望、左に石狩岳、川上岳、ニペノ耳等を見ながら、足元に細心の注意を払いながらP.1,770mの分岐点に8時11分着。

石狩岳を見上げながら10分休憩を取り、高山植物・音更山・大雪山を見ながら8時57分、道標の石狩岳山頂に着く。

何か山頂に着いて三角点がないと落ち着かない、展望は360度で大雪山が近くで近親感をおぼえて、又ニベソツ山も鋭く天を指す山姿に、北海道の山にどっぷりつきりそうで強烈な印象を受ける。

9時25分、記念写真を取り分岐点まで戻り、音更山(1,932m)にハイ松の中を音更山にかかるとゴツゴツした岩の山で分岐から45分で傷のない一等三角点頂上に着く。(AM10時12分着)

やはり一等三角点の石は大きくてなんととなしに落ち着くから不思議、周囲の山々を展望し、記念写真を取り下山にとりかかるとユニ石狩岳から登山客が8名山頂着、これから石狩岳に登ってシュナイダーコースを下山するとの事。

往路、分岐点(1,770m)迄戻り直登、急登の下り、シュナイダーコースを2時間40分で無事テントサイト駐車場に帰る。PM13時46分着。もう一度岩間温泉に戻り、川にビールを冷やし、入湯、ビールを飲み車内で仮眠する。

次の山、大雪山、白雲岳(2,229.5m)に向かって、下山届を小屋に提出して三股からR.273、三国峠は新しいトンネルで結ぶ計画で工事中、高原温泉標識で国道を左折、砂利道を約8km入って行くと、高原温泉山荘前に到着。

昭和47年、昭和天皇も入浴されたという秘湯で、牛乳風呂の様でやや高温で、北海道の人達も数多く入湯に来られ駐車場も満車状態、又、トムラウシ山、大雪山、高原沼めぐり登山コース登山口で人気がある所(入浴代600円)。

#### 大雪山、白雲岳(2,229.5m)三等三角点

7月22日、登山口に山岳パトロール隊の二階建小屋があり登山届を出してAM4時00分出発。沼めぐり左廻りコースでバショウ沼・土俵沼・緑沼・熊沼・紅葉沼・湯の沼・えぞ沼・式部沼・大学沼・高原沼・空沼等々を散策、見学して三笠新道で高根ヶ原分岐点にとりつく。

(AM6時42分着)

百名山旭岳から間宮岳・荒井岳・松田岳・北海岳・白雲岳に登山せず忠別岳・化雲岳・トムラウシ山縦走した時を思い起しながら白雲岳(2,229.5m)三等三角点山頂に登り着く。

(AM7時49分着)

去年に登った北鎮岳(2,244m)道標、桂月岳・黒岳等を展望して、記念写真を取り、小泉岳、松浦岳に登りお花畑を見ながら高原温泉登山口に無事戻る。(AM11時17分着)

本日、早く白雲岳に登山出来たのでR.273大雪ダムを見学してR.39で層雲峡簡保保養センターでキャンセルがあったので、泊りの予約を取り、本日もう一山、ニセイカウシュッペ山に移動する。(登山口13時20分着)

#### ニセイカウシュッペ山(1,878m)二等三角点

層雲峡温泉から北へ9km位い事を進めると清川小学校前を右折、小学校は廃校で二世帯が住んでいる所、廃校はずれにニセイカウシュッペ山登山口のプレートがあり林道を約5km位進んで行くと登山ポストが設置されている所が登山口で車も5~6台駐車するスペースがある。

(出発13時28分)

最初は3回位い沢を遡って登って行くと熊の糞を発見、清川の二世帯で六匹の番犬がいたのが良くわかる、熊が人里にえさを求め、出没する為だろう。

鈴を鳴らしながら25分で広い古川林道に出て、これからは尾根上の林道を山頂まで一本道の登山道。約4kmの林道歩きを55分で登ると、ようやく山道に入って登りもきつくなり左手に本峰、右手正面に小槍・大槍が見えだし、小槍手前のピークでワンピッチ。

手近に見える大雪山を展望しながら水分補給、高山植物と雪渓を入れて、本峰の写真を撮り、大槍を右にみて左に廻いて登りきると二等三角点の山頂。(15時34分着)

ニセイカウシュッペ山、一枚のプレートがあるだけで、あまり人気がないのか人にも合わない静かな山だが、この山の大きさにおどろく。

大雪山・天塩岳・北見富士等の山を展望し写真を撮り往路下山、登山口に戻り下山届を記入して簡保保養センターに入る。(18時52分着)

奮発してスタミナをつく料理を注文、ビールで一人乾杯し早々に久しぶりの蒲団にもぐり込み一夜明かす。

7月23日、4日間があつというまに過ぎ、朝食を済ませ、帯広空港に向って保養センターを後にして、空港出発まで時間があるので十勝川温泉の簡保保養センターに行き、(モール温泉)に入湯(入湯代400円)

モールとはドイツ語では(沼)(沢)という意味でヨーロッパ風の温泉で日本では十勝川温泉だけという。

まだ少し時間があり空港に向って走っていると昭和62年2月1日に廃止になった広尾線の愛国駅と幸福駅に立寄り見学記念写真を撮る。

AM11:20分JASで帯広空港を飛び立ち日高山脈を横断、太平洋上に出る時に幌尻岳、カムイエクウチカウシ山、ペテガリ岳、神威岳、楽古岳、アポイ岳等が手にとる様に見えた為、来年は8月中期にカムイエク山、ペテガリ岳、神威岳に計画を立て、そうこうしている内に眠気で夢の中、気が付くと大阪空港着、無事帰阪する。

## 【個人山行】

### 黒岳・大菩薩嶺・茅ヶ岳

大槻雅弘

暑い夏がやって来た。

例年ならこの挨拶でいいのだが、

この冷夏は、どうしたことか。7月には観測史上3ヶの台風は来るし、各地で大雨は降るし、それに北海道の大地震。日本列島はガタガタである。その上、追い打ちをかけるように、鹿児島県の豪雨である。この異状気象は世界各国で起っている。アメリカ、中国、ネパールにも大雨を降らせた。おまけにアリアナ諸島で大地震もあった。

そんな天候をよそに、一日は台風の雨風にさらされもしたが、後は晴天に恵まれて3日間の山旅をして来た。

1日目。小金沢連嶺の黒岳(△1,988m)へ登った。最高峰は小金沢山の△2,014.3mだが黒岳

は一等三角点でもあり、「一等三角点百名山」にも選ばれている。

京都からは中央道勝沼ICを出て、初鹿野を経て焼山林道を走り湯の沢峠まで約6時間で入ることが出来た。途中、大雨の為か林道は峠の20分程手前で崩れていたの、そこを車止とした。

高度1,560mの湯の沢峠から、淡紅色のシモツケや、ミネウスユキソウ、オオバギボン等に導かれ白岩ガ丸まで登った。白岩ガ丸からの山肌は急変して針葉樹林帯となって三角点まで続いた。

そこは、これといった特徴もなく、展望もない三角点であった。坂井先輩にこの山を「一等百名山」に何故選ばれたかは聞かなかったが、それなりの理由があったのだろう。

山の頂だけではなく、地域全体に目を移すと、山麓の田野集落は武田家滅亡にからまる歴史の舞台である。武田勝頼、信勝一族討死の地でもある。山姿、歴史等総合的に選ばれたのであろうか。

2日目。小説、中里介山により有名になった「大菩薩峠」へ登った。いや、正しくは、深田久弥の日本百名山「大菩薩嶺」に登ったのである。「嶺」という字は「とうげ」とも読まれる。

登路は、長兵衛山荘から唐松尾根を採った。登り口は唐松のきれいな林を小鳥のさえずりと共に進んだが、やがて息切のする急坂な径となった。でも、稜線の雷岩まで誰一人として逢わず、静かな登りが楽しめた。

三等三角点のある大菩薩嶺(△2,057m)は、黒岳と同じく木々で囲まれた中にあり、これと言った感動は与えてくれない。でも、三角点から大菩薩峠に至る広々としたカヤトの径で、深田久弥の『百を選ぶ以上、その数倍の山に登って見なければならぬ』と言う言葉が解った。文句なし、富士を見るに最高の展望を満喫出来る。やはりいい山である。下るのが惜しい。スケッチタイムを取った。少し色付け等して気取ってみたりもした。目的の峠は人声で賑わってる。やはり、百名山である。大菩薩峠は人・人・人であった。

その峠の喧噪を逃れ、長兵衛山荘の上日川峠と下り、山の湯につかって次の目的地へ向った。

3日目。茅ヶ岳へ登った。

『私の山登りは少年時代に始まって今日に至るまで殆んど絶えたことがない』と日本百名山の後記に書かれている。その著者、深田久弥は、この茅ヶ岳で、1971年3月21日脳卒中で頂上目前に倒れた。

その頂は、展望が一級であるという案内に魅せられ、1993年8月1日8時52分に立った。富士山、南アルプス、奥秩父、丹沢とうわさどおり第一級の山岳展望台であった。1時間近く山頂での喜びを満喫し、三角点を後にした。

「百の頂には百の喜びがあり」と登山口の深田久弥の句碑は語る。三山、それぞれの頂の喜びを味わった、山旅であった。

【個人山行】

箱 根 の 山

岡 田 茂 久

箱根の山は天下の険 函谷関も物ならず 万丈の山千仞の谷 前に聳え後に支う  
雲は山をめぐり霧は谷閉ざす 昼猶闇き杉の並木 羊腸の小径は苔滑らか  
一夫関に当るや万夫も開くなし 天下に旅する剛毅の武士 大刀腰に足駄がけ  
八里の岩ね踏み鳴らす 斯くこそありしか往時の武士

過日、箱根の山を歩く機会を得た。宿で薦められた「箱根フリーパス」を購入する。4日間通  
用で計3,500円、箱根の登山電車からバス、ケーブル、ロープウェイ、おまけに芦の湖の海賊船  
まで乗り放題という優れ物である。まず、箱根湯本から仙石原までバスに乗車する。土曜日とい  
うのに仙石原で下車したのは私一人であった。案内所のコインロッカーで背広をスーツケースに  
突っ込み、Tシャツにジョギングシューズという軽装で、20分程でウグイス峠までかけ上がる。

薄曇りで目指す金時山はガスっているが、眼下に広々とした仙石原の眺めがよい。やっと一組  
の先着していた登山者に合う。昨日買った8ミリビデオの操作方法が判らず困っていた。気の毒  
に。

峠からは笹を切り開いた登山道が続き、金時神社への分岐を過ぎると樹林帯に入る。結構、急  
な登りであるが、40分で金時山1,213mの頂上にポンと飛び出した。危うく手前の茶屋に入りか  
けたが、目的は一段下がった所に立つ「元祖金時茶屋」である。他に登山者もなく「金時娘」こ  
と小見山妙子さんに歓待される。13才の時から母親の後を次ぎ、この金時山で登山者の世話を  
しているという。父親はかつて富士山の測候所に勤めて、新田次郎の小説「強力伝」のモデルで  
ある。

娘さんのさおりさんが母親の後を次ぐことになり「金時乙女」と呼ばれているそうだ。最近に  
結婚したということで、「金時乙女」の結婚式の写真まで披露してくれ、芋の煮ころがしから、  
山菜の漬物、山ブドウと八重桜の花のジュースなどを御馳走してもらったうえ、達筆で一首、  
「吹く風の涼しくなりし金時に呼びあうごとく春蟬の声」まで頂いてしまった。土産に金太郎さ  
んの腹掛けを買ってしまったが、これは帰ってからカミさんにひんしゅくを買うことになる。

金時山はご存じ、源頼光の家来となって大江山の酒顛童子を退治したという坂田の金時、いや  
五月の節句の金太郎さんの育ったところといった方が良いだろう。別名を猪鼻山という。「駿河  
記」には岩が落ちた音に驚いた大猪が、岩に鼻をぶつけて死んだという故事から名付けられた  
というが、鈍な猪がいたものである。登山者が増えてきたのを機に金時茶屋を辞す。富士山はち  
らと見えただけで後は深いガスに包まれたままであった。帰途は長尾山から乙女峠を経て姥ヶ茶  
屋へ下り、仙石原のバス停まで久しぶりにヒッチする。映画を真似して冗談に親指を立てたら、  
ほんとに土建屋の兄ちゃんのトラックが止まってくれた。この辺はこんな人が多いだろうか。

折り良く到着したバスで芦の湖の北端の桃源台にでる。次いで待望の海賊船に乗船したが、一  
人でディズニーランドで遊んでいるようで、どうも居心地が良くなく面映ゆい。船上でナップザッ  
クを蹴飛ばされたのがきっかけで、二人連れの外人娘と話をする。でかいだけで世辞にも美人と  
はいいがたいが、栗色の髪だけは美しい。日本語と超ブローケン英語のチャンポンで、結構話が

通じるから不思議だ。「マウンテンゴールドタイム」に登ってきたといったら変に喜んでいて。なにか勘違いしていたのだろう。

元箱根で下船。成川美術館に行くという彼女達と別れ、予定通り箱根八里の石畳道へ向かう。箱根八里は江戸時代の五街道のひとつ、東海道の小田原宿から三島宿までの八里にわたる箱根山越えの街道で、今に残る杉並木は見事である。杉並木から旧国道を歩道橋で渡り、石畳道へ入るが結構急な勾配である。午後遅い時間であり、だれにも合わず江戸時代にタイムトリップした気分である。今にも向こうから弥次さん喜多さんが歩いて来そうであったが、突然、馬子歌の碑の前で弥次さんならず、石畳をガタゴト自転車を押してくる仙人然としたおっさんに出くわす。すれ違い様に「兄さん仕事ないか」には驚いた。聞くと石工であるが、小田原城の修復の仕事があると聞いてきたが、小田原では仕事にアブレて三島に行くという。箱根八里の石畳道を見ておきたかったのだそうだ。残っていたテルモスのコーヒーを推め、二人で座り込んで柔らかなガスが流れる双子山を眺める。何とも気掛かりなおっさんだったが「ガンバリヤ」と別れ、急いで旧箱根街道が旧国道と合う近辺まで往復する。暮れなずむ箱根から三島へ下りるバスの窓から、キークィーとブレーキ音も高く、排気ガスを浴びながら下っていくおっさんが見えた。「おっさんに幸いあれ」。

三島に住む従兄弟の家の二階からは、富士山が良く見える筈だったが、昨日と同様に雲が低く富士山は姿を見せなかった。富士山からの湧水が少なくなったと聞いていたので、朝から何ヶ所か案内してもらったが、まだまだコンコンと美しい水が湧き出し、清冽な小川となって流れ出しているのを見て安心した。それでもこの湧水も一部では有害物質に汚染されているという。

三島から再び箱根に向かう。元箱根から二度目の海賊船に乗り、芦の湖の北端の桃源台からロープウェイに乗り継ぎ大湧谷で降りる。小雨に煙る大湧谷はガスか噴気か区別が付かない。小雨というのに大勢の観光客には感心する。それでも噴煙地への遊歩道から別れ、神山登山道に入ると観光客は皆無となる。登山道の小さな流れは手を浸されない程の高温の湯だった。冠岳の黒い岩峰がかぶさるように頭上に険しい。早雲山から神山への稜線まで登ると薄日が差してきた。途中何組かのパーティと出合ったが、外人さんが多く、外国の山に登っているのだろうかと思わせる程で、さすが、国際的な観光地の箱根である。40分程で小広場を持つ神山 1,487m 一等三角点に到着。駒ヶ岳方面は何とか望めるが、芦の湖は雑木に遮られ木の間越ししか見えない。時間に急かれ早々に下山する。横道に外れて立ち寄った冠岳も、神山同様で冠岳を鏝う岩壁はおろか、芦の湖も頂上の岩によじ登ってやっと見ることができた。箱根の山は良く滑る。下りで誤って流れに足を突っ込み「アチ、アチー」、慌てて靴下まで脱いで足を振まわすが我ながら鈍くさいことだった。

強羅からの箱根登山鉄道は、別名「あじさい電車」と言われるほどで、線路の脇は紫陽花がいっぱいの楽しい登山電車である。何十年ぶりに更新という新車に乗せてもらったが快適であった。

[コースタイム]

仙石原 (10:00) - うぐいす峠 (10:30) - 金時山 (11:10~12:10) - 長尾山 (12:40) - 乙女峠 (12:55~13:05) - 姥ヶ茶屋 (13:25)

元箱根 (15:00) - 旧箱根街道石畳道往復 - 姥ヶ茶屋 (17:40)

大湧谷 (12:45) - 神山 (13:25~40) - 冠岳 (13:55) - 大湧谷 (14:20)

# 例 会 報 告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記 事
1948	傘山	5月2日 ～3日		伊藤 潤治	他13名	この例会案内は傘山であったが雨天のためこの地にある『日本山嶽志』の「備中国阿哲郡ノ北方ニアリ、刑部（ヲサカベ）村大字小坂部ヨリ三十町ニシテ其山頂ニ達ス、標高三千二十六尺。『地辞』山勢雄偉、四方環圍の群山の上に超越し美作、伯耆の地より文を望見すべし」とある、表記だけで帰った。
1955	今西忌追悼登山 四国 西赤石山	6月14日 ～15日		伊藤 潤治	山下 他1名	(別稿詳報)
1959	ちょっと渋い山 男埴山	7月11日		河村 清	伊藤、三橋 他1名	(別稿詳報)
1961	第1回トレール 東山コース	7月18日	曇 時々雨	三橋 勉	岡田、奥村 津田、横井 坂井、和田 鷺見夫妻、 井戸、山元 方山、大倉 原田、石川	梅雨空のうっとうしいお天気であったが、お稲荷さんに集合した一般市民の参加者が順次出発し、山道の途中にあるスリッパ箇所では役員の皆さんの適切な誘導などで、無事通過し、コースの途中にある清水山の三角点も踏み、將軍塚で参加記念スタンプをもらってゴールの粟田口に降りました。
1962	笠形山	7月24日		奥村 弘信		中止しました。
1963	第4回夏山合宿 聖岳・赤石岳	7月30日 ～8月3日		西尾 直樹		悪天、コンディション不良のため中止しました。
1964	千日参り 愛宕山	7月31日	晴	和田 良一	岡田、奥村 三橋、方山 渡辺F1 他1名	恒例の千日参り。例年と比べあまり暑くもなく、表参道を往復し、お札を受けてきました。
1965	沢登り 鈴鹿 元越谷	8月1日		岡田 茂久	鷺見、横井、 渡辺、方山 三橋	(別稿詳報)



## 部 員 動 静

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
小川山クライミングツアー	7月2日 ～4日	曇り	台川 敦美	(別稿詳報)
カムエク岳	7月8日	晴	坂井他2人	2回目だったが残雪多く札内川も水が多かった。
弁敷嶺(ベックンネ)	10日	晴	坂井他2人	熊の足跡があったが道跡があった。
斜 黒岳	11日	晴	坂井他1人	2回目だったが下山は熊見峠の新道を下った。
サマウスプリ山	12日	曇	坂井他2人	道のない山であったが山麓迄ブル道があった。
ペラリ山	15日	曇	坂井他2人	3回目に山頂天測点のある1等△をふんだ。
井の口谷山	22日	晴	坂井他1人	台杉の巨木を見に行った。道あり
丹波富士	7月18日	曇	大槻 雅弘 他1名	府下182座の山は、1/5万地形図の内に「四ッ谷」が31山あり、二番目に「京都西北部」が22山を数える。その次が「綾部」の15山で、今回丹波富士を登り、「綾部」を完登した。坂井久光氏のデータを元に、1山1山登っているうちに、合計154山となった。別名「砥石山」と呼ばれるこの山は、地元で聞いたルートは、砥石採石場までしっかりしたルートがあったが、後はヤブであった。下りは尾根にいい径がありそれを下った。登り口で、このルートを見つけるのはむつかしく、通り過ぎてしまったのでいらぬ汗をかいた。
東大雪の山旅	7月19日 ～23日		服部 正義	(別稿詳報)
黒岳・大菩薩嶺 茅ヶ岳	7月30日 ～8月1日		大槻 雅弘 他1名	(別稿詳報)
箱根の山			岡田 茂久	(別稿詳報)

# 雑 報

## △△△ 8月の集会

日 時 8月12日(木) PM7:00~8:30

場 所 厚生会館 4F 大教室

出席者 (本局) 岡田, 大槻, 井戸, 三橋, 方山 (梅津) 吉田  
(OB) 近藤, 坂井

以上8名

内 容 例会報告ほか

## △△△ 7月の企画運営委員会

日 時 7月21日

場 所 厚生会館 4F 大教室

出席者 岡田, 大槻, 三橋, 吉田, 大倉, 奥村, 津田, 馬淵

以上8名

内 容 例会予定, 岳連関係報告ほか

## △△△ 他山岳会の会報(受贈分)

7月号 比良山岳, 烏帽子

8月号 京都山岳, 近畿山行, 趣味の登山, 木雞, 山友, 青嶺

## △△△ 入 部

北田 貞雄 所 属 本局

住 所 〒605 京都市東山区今熊野日吉町189

TEL 075-541-5729

血液型 B型 生年月日 昭和15年11月4日

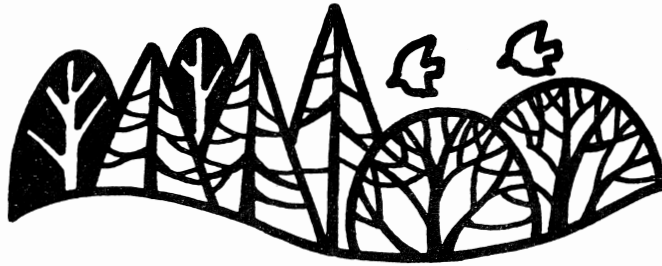
## △△△ 退 部

河合 秀晃 (高速)

## △△△ その他

・6月26日~27日に恵那山に登られた方にお知らせです。Tシャツの忘れ物が届いています。京都市交通局の人ということだけが手がかかります。心当たりの方は岡田(811)までお知らせ下さい。

・日山協山岳遭難共済平成5年度第2次募集を行っています。加入希望者は9月14日までに井戸(743)までお知らせ下さい。



# THE LOG CABIN CO.

H.HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS  
KYOTO JAPAN

登山道具店 ログ ケビン

〒604 京都市中京区御幸町通娯楽師下ル  
FAX:(075)221-8069 電(075)221-7569

営業時間:午後3時~8時 お問い合わせはなるべく郵便か  
定休日:月曜日と火曜日 FAXをお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

## サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075)771-3442

帆布・濾布  
テント・シート  
雨合羽

## 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前  
TEL 801-5331 (代)

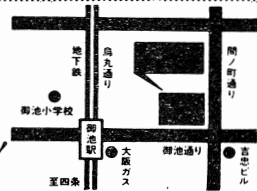
西大路営業所

下京区西大路七条下ル  
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

## 今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、  
注目のスポーツ  
カヌーをはじめ、  
ひと味違う充実の  
品揃えは必見のもの!!



## ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>  
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)  
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング  
アウトドアウェア・US製出品  
ポータブル用品

**Mountain**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(258)-0548  
●営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休  
●(株) スポーツ コニシ

山 山 山 山 山 …… ⑭

次の当て字の読みを記しなさい。

山葵 案山子 山梅花 山芥菜  
海州常山 外山 山祇 朝熊山  
径山寺味噌 皇海山 映山紅  
山梗葉 山黒豆 山女 山慈姑  
金山 巫山戯る 天女花

製作 (株) 北斗プリント社  
〇七五―七九一―六一二五

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店  
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次  
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店  
各種地図製作並びに印刷  
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

小林地図専門店

株式会社 **小林地図専門店**

〒600 京都市下京区<sup>あけず</sup>不明門通六条下る西側  
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎ (075) 351-6598 (代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成5年9月1日

京都市中京区壬生坊城町 4 8

京都市交通局内  
**京交山岳部**